



気軽に渡せるお土産として市民にも好評の「浦安の絆」ブランドの商品

## まちの自慢のお土産をつくることができました



株式会社 アップス  
代表取締役  
関 喜和 さん

弊社は、事務用印刷物や商業印刷物・アルバムなどを手掛けている会社です。商工会議所には平成3年に創業してすぐに加入し、労働保険事務組合や共済など、さまざまな事業を積極的に利用してきました。11年からは小規模企業振興委員・常議員として参画し、まちを元気にしようという活動しています。

20年に柳内光子会頭の「浦安ブランドをつくろう」との提案の一環で取り組んだ事業が、事業推進委員会で企画開発した地域ブランド「浦安の絆」です。浦安の地域資源は限られているので、全国各地にある貴重な地域資源の販路開拓を浦安で支援しようということになりました。そこで「ふるさと雇用再生特別基金事業」として浦安市より委託を受けるべく地域ブランド開発プロジェクトチーム（16名）を発足させました。

まずは「浦安ブランドの酒をつくろう」という方針を決め、特産品として打ち出せるものとして、昔、浦安の池や沼に自生していた植物「菱」に着目。佐

賀県で菱の実を使った焼酎を開発していた酒造会社と協力して、みんなで試行錯誤しながら「浦安の絆熟成菱焼酎」をつくり上げました。

21年に「浦安の絆」というブランド名とともに売り出したこの珍しい焼酎は大好評で、これまでに1万本以上を販売。地元飲食店での利用はもとより、市民の皆さまにも手土産として活用していただいています。その後、地元大学とともに実施した「浦安の絆」商品開発コンテストの入賞作を商品化した、ノリ採取用の木船「べか舟」をモチーフにしたお菓子「浦安べかチョコ」で、ブランド知名度のさらなる向上も実現しました。こうして、日頃は交流のない異業種の人とも連携しながらまちを元気にする新たな事業に挑戦できるのは、さまざまな事業者が会員となっている地域経済団体、商工会議所の活動ならではの思いです。今後も、地域活性化に向けた商工会議所の取り組みに、どんどん参加していきたいと考えています。

ご相談は最寄りの商工会議所までお気軽にどうぞ！

担当者からひと言



浦安商工会議所（千葉県）  
経営支援課 課長  
経営指導員  
秋山 和宏

「浦安の絆」ブランドは、関さんをはじめ事業者の方たちの尽力のおかげで、地域の皆さんにぜひふん定着しました。アンケートでは約7割の市民が認知しているとの結果が出ています。

昨年には、浦安商工会議所の設立20周年を記念して、20年間低温熟成させた日本酒「熟成大吟醸 20th Sprout」もブランドに加えられました。どちらかというと男性向けイメージの「熟成菱焼酎」に対し、白ワインのような飲み口のこちらの古酒は、女性にもオススメです。

これからは、すでに開発した商品のさらなる販売促進に取り組みとともに、新たな商品の検討も進めていきたいと思っています。事業者と一丸となって、この「浦安の絆」ブランドをさらに発展させていきたいですね。